

平成21年度

鳥取大学附属中学校入学式

## 祝 辞

桜が満開の中、新入生の皆さん、鳥取大学附属中学校へのご入学おめでとうございます。  
心から皆さんのご入学を歓迎致します。

鳥取大学附属中学校は、鳥取池田藩の学校、尚徳館がありました、現在の県立図書館の地に昭和二十二年に開講され、多くの卒業生が、様々な分野で活躍中であります。

教育精神も尚徳館の教えを受け継ぎ、  
校訓として「文武併進」「切磋琢磨」を掲げています。

皆さんの教室にもその額が掲げられ、毎日見ることが出来ます。

文武併進とは、学問と武芸に励むことであり、文と武を表現したという と を組み合わせた角輪の紋が、鳥取大学や鳥取市の紋章にも取り入れられています。

中学生の皆さんにとっては、勉学と芸術・スポーツに励むこと、といっても良いでしょう。

切磋琢磨とは、友達同士、互いに励まし合い、共に勉学と品性を向上させることといえます。

本学附属中学入学に際し、校訓にてらして二つの「じりつ」ということを、皆さんに希望します。

一つは「自ら立つ」という「自立」です。働いてお金を稼ぎ、経済的に自立せよということではありません。

他人から押しつけられてする勉強ではなく「自ら問いを發し、疑問を持ち、その解決に向けての知識・技能を身につけるための努力をして欲しい」ということであります。

附属中学校で学ぶ「基礎的・基本的学習内容をマスターすることは勿論、様々な体験を通して自ら学び、考える『学び方を学ぶ学習』をしていただきたい」ということです。

二つ目は「自ら律する」という「自律」です。自分で自分の行動を規制し、外部からの力にしばられないで、自分の立てた規範に従って行動してほしいということです。

千八百年代の中期、イギリスのパブリックスクール1つで現代のラグビーフットボールを誕生させたラグビー校でのことです。九月に入学したばかりの新入生「トム・ブラウン」が十一月の寒い日に、白いトレパンをはいている先輩に「どうして白いトレパンをはいているのですか」と尋ねたところ、そのころのフットボールのゲ - ム中に頻繁に行われていた「ハッキング」という「革靴で、すねを蹴る反則」を自分たちのチームは決してしないという印だと教えられます。このラグビーを楽しみ規律を身につけた生徒らは、オックスフォードやケンブリッジ大学に進学し、大英帝国を背負うって活躍したといわれます。

附属中学校では全国レベルの新体操・陸上競技など運動部の活動も盛んです。学年が異なる生徒の集団である部活動で、スポーツマンシップを発揮し、組織の一員として責任を果たし、困難なことにも根気よく立ち向かい、粘り強い精神力を養うことも良い経験になるのではないのでしょうか。

最後になりましたが保護者の皆様、ご子弟のご入学おめでとうございます。

鳥取大学は平成十六年の国立大学の法人化と教員養成機能を持つ一般学部の地域学部への改組に伴い、附属幼稚園・小学校・特別支援学校、そして中学校の四校園を有する部局として附属学校部を設置して、大学との結びつきを一層強化しました。

附属学校園は、ご子弟への良好な教育を施し、確かな学力の習得をめざすことは勿論ですが、全学部生の教育実習の実施に協力すると共に、大学の人的資源や物的資源を活用して、先導的・実験的な取組を行い、国の教育政策の推進や地域の教育界との連携協力の下「モデル校」として、教員の資質・能力の向上、教育活動の推進に寄与するという使命を明確にしていくこととしています。

本附属中学校の設置の趣旨をご理解頂き、教育・研究の推進に、皆様の多大なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、祝辞と致します。

平成二十一年四月八日

鳥取大学附属学校部長  
油野利博